

「大塚神明社の大イチヨウ」は、神明社の御神木でした。神明社は多摩ニュータウン造成の際に移転したため伐採されそうになりましたが、市の文化財に指定され残されました。神明社に保存されていた棟札（むなふだ）に、寛文（かんぶん）3年（1663年）の銘があることからイチヨウの樹齢は約500年と推定されています。

紅葉台



新聞

第221号

2026年

2月14日

発行人：関谷 孝

八王子市の木、花、鳥に出会う

「はちとぴ1月号」に掲載。「八王子自然探訪」より

八王子、日野カワセミ会会長、粕谷和夫

八王子市の木はイチヨウ、花はヤマユリ、鳥はオオルリであるが、このうち市民が身近に、かつ1年中接することができるのはイチヨウだけである。

最も有名なイチヨウは甲州街道にある大正天皇の御陵造営を記念して植えられた並木であろう。黄葉の時期には、毎年いちよう祭りが開催される。このお祭りのときの混雑を避けて鑑賞したいのであれば、祭りの前後の日に歩道をゆっくり歩くことを推奨する。特に並木町の歩道橋からの眺めは抜群だ。**花言葉が「長寿」**であるイチヨウの寿命はとても長く、何百年、数千年とも言われ、生命力が強い樹木である。八王子市の天然記念物になっている大塚明神社（多摩モノレールの「松が谷駅」付近）の巨大イチヨウは、樹齢約500年と推定されている。変わったイチヨウが兵衛2丁目の熊野神社にあるラッパイチョウといい、扇形に開くはずの葉であるが、なぜか漏斗状になっている葉が見つかった。この神社は横浜線八王子みなみ野駅東口から兵衛川沿いの道を500メートルほど西に向かって最初の信号付近にある。



ヤマユリが市民の目につくのは、7月の開花時期だけでこの時期に高尾山や近くの丘陵地に行けば、ほぼどこでも咲いている。ヤマユリの花は大きく強い芳香を放っているのですぐわかる。しかし、最近は球根がイノシシに食べられてしまうので、同じ場所に翌年行っても咲いていないことがよくある。秋川街道を進み、**上川町の大仙寺**と言う山寺（無住の古寺）の山門周辺の斜面には、ボランティアの方々が保護活動している所があり、山登りをしなくても、ここで見事なヤマユリに対面できる。



オオルリは、ツバメと同じように春から秋までしかいない渡り鳥で、かつ人里離れた川の上流部で子育てするので、ほとんどの市民は気がつかない鳥である。このため、八王子・日野カワセミ会では、市民を対象に毎年5月の第2日曜日に、旧甲州街道の小仏付近の小下沢林道で「オオルリを探す会」を実施している。オオルリのオスは姿が綺麗で、鳴き声もすばらしいので、カワセミ会が発足した40年前には市内でも飼育されていたオオルチのさえずりがあちこちから聞こえてきた。そこでカワセミ会ではオオルリの密猟防止のためにパトロールをしていた。今では野鳥

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

を飼う人はいないと思われるが、野鳥を許可なく飼う事は犯罪であることを認識してほしい。

粕谷和夫の観察日記



イチゴノキの実です（12月12日、八王子みなみ野駅付近）。ヨーロッパを原産とする常緑低木で、戦後に日本へ渡来し、花や果実を鑑賞するため庭木として使われています。イチゴ（バラ科）の仲間ではなく、ツツジ科でヤマモモに近い。この写真の果実は前年の12月に開花したもので1年間かかり熟しました。食べられますが味はほとんどなく、鑑賞用、師走の今頃の駅前夜はイルミネーションが輝きますが、昼はこの実が輝いています。



八王子・湯殿川で毎月野鳥の定期カウントをしています。12月は13日に実施、10名のカワセミ会の仲間が参加しました。この日は22種、315羽をカウント。カモはコガモ40羽、カルガモ13羽の常連の他にこの川では珍しい**ハシビロガモ**というシャベルのようなくちばしで水を吸い込み植物プランクトンなどを濾して食べるカモのオスとメスがいました。写真上の左がメスで右がオスです。このオスは今は未だ地味な模様ですが、来月になると派手な繁殖羽根に変身します。

12月16日、八王子・長池公園の雑木林の林縁で黄葉していた**ハリギリ**です。若い幹や枝に写真下のようにハリのような鋭い棘がありますが、この針は老木になるとなくなり、小枝にのみになります。春、若葉は同じ仲間のタラノキと同様に食用になります。天ぷらが美味しいです。



実が熟すと赤くなる**カラスウリ**に対して、この写真の実**キカラスウリ**です。12月20日、八王子市内の運動場のフェンスとその隣のサクラの木にツルが絡まって実が鈴なりになっていました。根はイモ状の球根で、「天瓜粉（てんかふん）」が取れます。吸湿性が高いため、昔からアセモの治療やオシロイの代用品として使われてきました。

1月6日、八王子・南浅川の上流部の道を自転車で走っていると**イイギリの赤い実**が**青空バック**に輝いていたので見とれてしまいました。イイギリは高尾山に自生していますが、夏に木陰を作る目的で人が集まる公園などにも植えられていますね。イイギリの「イイ」の意味は大きな葉が昔、食器代わりに飯（おこわ）を包むのに使われたことからといわれています。

